

一年	国語	Gアップシート	書く2
----	----	---------	-----

組	番・氏名
---	------

★詩の鑑賞文を書く

◇吉見さんの学級では、一人一人が自分の気に入った詩を読んで、感想を発表することになりました。そこで、吉見さんは小学校の卒業式で歌った「ふるさと」の歌詞について鑑賞文を書くことにしました。

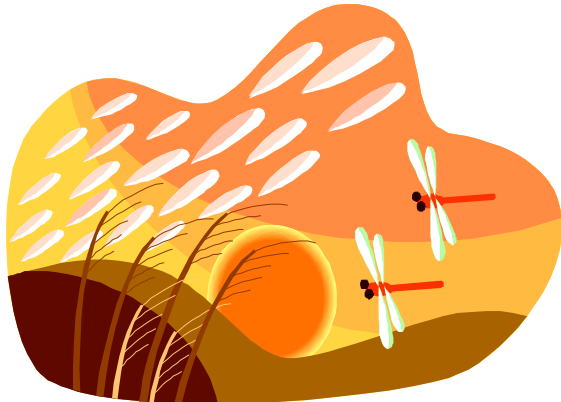
ふるさと

作詞／高野辰之
作曲／岡野貞一

兔(うさぎ)追いし かの山
小鮒(こぶな)釣りし かの川
夢は今もめぐりて
忘れがたき ふるさと

如何(いか)にいます 父母
恙(つつが) 無(な)しや友垣(ともがき)
雨に風につけても
思い出(おも)い出(で)ずる ふるさと

志(こころざし)を 果たして
いつの日にか 帰(かえ)らん
山はあおきふるさと
水は清(き)き ふるさと



問一 この歌詞の表現のA～Cの工夫について、それぞれどんな効果があるか、後のア～エから選びなさい。

【様々な角度から作品のよさについて考える】

- A どの行も四音と六音を足した十音で構成されている。
- B 一番から三番まで全てが「ふるさと」という言葉を使った体言止めになっている
- C 三番のみ「ふるさと」という言葉を二回繰り返している。

- ア 一～三番の歌詞に統一感を出すとともに、余韻を残す。
- イ 曲をまとめて、ふるさとへの気持ちを強調する。
- ウ 声に出したとき、リズムを感じて歌いやすくなる。

A			
B			
C			

問二 吉見さんは一番～三番の歌詞の違いを考え、次の文章のようにまとめました。Aに入る言葉を後の語群から一つ選んで書きなさい。また、B～Dに入る言葉をそれぞれ考え、漢字二字で書きなさい。

【様々な角度から作品のよさについて考える】

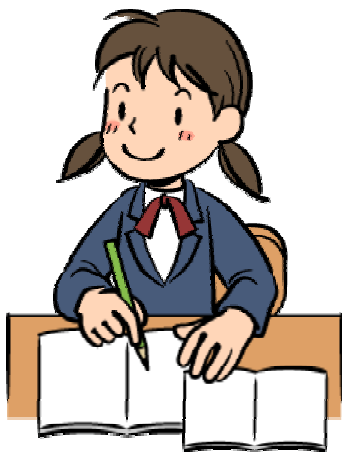
「ふるさと」の歌詞は、一番から三番までそれぞれ歌っているAが違ってきます。一番ではBのふるさと、二番ではCのふるさと、三番ではDのふるさとについて歌っています。これによって作者は「ふるさと」に対する永遠の思いを表現したのだと思います。

【語群】 場所 季節 仲間 時代

A	B	C	D

◇吉見さんは次のように鑑賞文を書きました。

この歌詞を読んで、作者の□と決意が入りまじった複雑な気持ちを感じました。
 「ふるさと」という題ですが、この歌詞の中では実際のふるさととは出てきません。そこにあるのは作者の心の中の思い出や想像のふるさとの姿です。
 作者はきっと、ふるさとに帰りたいという気持ちを強く持っているのだと思います。または、自分の夢をかなえるまでは帰らないという思いで踏みとどまっているのでしょう。
 こういう気持ちは、ふるさとを離れた人はみんな持っているのだと思います。だからこそ長い間、多くの人に歌い継がれているのではないのでしょうか。



問三 吉見さんの鑑賞文はどのような構成になっていますか。

記号で答えなさい。

【段落の役割を考えて文章を構成する】

- ア 分析をもとにした考察
- イ 自分の感想のまとめ
- ウ 最初に読んで抱いた印象
- エ 心に残った部分の分析

↓	↓	↓
---	---	---

問四 吉見さんは、自分の感想だけでなく、作者が歌詞を作ったときの思いを想像しながら鑑賞文を書きました。作者の思いについて書かれている段落はどれか。段落の最初の五字を書き抜きなさい。

【作品のよさについて、作り手の思いや見方を明確にして書く】

問五 吉見さんは「ふるさと」の歌詞から『故郷に帰りたいのに帰れない、やりきれない思い』を感じて鑑賞文にしています。この気持ちを表すとすると、空欄にはどんな言葉が入るのが適切でしょうか。ア～オから一つ選びなさい。

【多様な語句を文脈に応じて使い分ける】

- ア 苦しき
- イ つらき
- ウ 切なさ
- エ たまらなさ
- オ うれしさ

--

◇学び合いのために、できあがった鑑賞文を読み合いました。

問六 浅尾さんは、「詩のとらえ方とその根拠に注目して読む」というねらいで吉見さんの鑑賞文を読み、意見を述べました。ねらいにそった意見として適切なものをア～オの中から一つ選びなさい。

【作品のとらえ方や根拠の明確さなどについて意見を述べる】

- ア 吉見さんの文章は詩の内容をよく分析しているし、読み手を意識した丁寧な文体で書かれているところがとてもいいと思います。
- イ この鑑賞文から、僕は自分の兄の事を思い出しました。地元を離れて生活している兄も、同じ思いをしているのかもしれない。
- ウ この詩の作者はきつと夜空を見ながらこの詩を書いたのだと思います。場所に関係なくふるさとにも同じ星空が浮かんでいると思うからです。
- エ これを読むと吉見さんが作品から感じた思いがよくわかるし、作者の居場所に注目した詩の分析からその理由もはっきり理解できます。
- オ 吉見さんの鑑賞文は、詩の作者の気持ちになりきって書いているところが素晴らしかったです。その根拠もしっかり書かれていました。



--

【書く2 詩の鑑賞文を書く】

- 問一 (A)ウ (B)ア (C)イ
問二 A…時代 B…過去 C…現在 D…未来
問三 ウ↓エ↓ア↓イ 問四 作者はきつ
問五 ウ 問六 エ

解説

問一 この歌詞には表現技法を用いた様々な工夫がされています。

(A) 詩全体に定型を用いることで、リズムを出しています。

(B) 体言止めを用いることで、余韻を残しています。

(C) 同じ言葉を反復することで、ふるさとへの思いを強調しています。

問三 文章の構成を考えるときには、読み手の思考の流れを意識し、どういう内容をどういう順序で構成すれば言いたいことが伝わりやすいか考えましょう。問題の答えの流れは「分析―考察―感想」となっています。

問五 似たような意味の言葉でも、状況に合わせて使い分けましょう。

苦しい：心が痛んで辛い。

つらい：がまんできないくらい苦しい。

切ない：悲しさや恋しさで、胸がしめつけられる。

たまらない：感情などをがまんできない。

うれしい：自分の望み通りになって満足である。

鑑賞文で吉見さんが書いている「帰りたいのをこらえている故郷への思い」に合うのは「切なさ(切ない)」です。

問六 ねらいを決めて感想を述べるときには、自分の言いたい感想ではなく、ねらいにそった感想を言うように意識しましょう。

アは、根拠に触れていません

イ、ウは、吉見さんの意見に触れていません。

オは、吉見さんの鑑賞文の内容と合っていません。